やわら　Teacher's Edition

堀伸也

□人物

森　浦賀南高校柔道部顧問。最近の生徒とそりが合わない。
佐藤　浦賀南高校の新任教師。未経験ながら柔道部の補佐に入っている。
小林　埼玉堺中学柔道部顧問。森の元教え子。

□時

5月の日曜日。午前10時頃。

□場

埼玉県立武道館主道場観客席最後列

佐藤　じゃあ私、帰りますね。
森　え？
小林　早いですね。
佐藤　このあとちょっと予定あって。というか、1試合だけ見にくるって約束だったんです。
森　小林のところはまだこの後だよ。
佐藤　あーちょっと間に合わないかもしれないですね。
小林　あ、じゃあ、あそこで試合やってる学校、結構強いらしいんで、あれだけどうですか？
佐藤　えーなんていうところですか？
小林　青薙中学です。あそこの小さい方の選手。
佐藤　本当だ。小さい。
森　ありゃダメだな。
佐藤　あ、投げた！
小林　おっ、惜しいな。
佐藤　今のダメなんですか？
小林　ポイントはつかないでしょうね。

試合終了のブザーが鳴る。

小林　あー。
佐藤　どっちが勝ったんですか？
小林　大きい方の子ですね。
佐藤　小さい方が投げたのに？
小林　その前にポイント取られて、逃げ切られたんでしょう。
佐藤　えーずるくないですか？
小林　まあ負けちゃったけど、結構やるでしょ？
佐藤　あんなに身長差あっても戦えるんですね。
小林　まあ、青薙中はみんな1年生ですから。
佐藤　え、相手は？
小林　ここに出ているのは大体3年生か2年生ですね。

©shinya hori 2025 Printed in Japan

佐藤　それってすごい不利じゃないですか。
小林　わかってて出てるんでしょう。
佐藤　そう考えると薙中めちゃくちゃ強くないですか？
小林　まあ、そうですね。多分もう二人くらい出てきますよ。
森　礼の仕方がなってないね。稽古で何を教えてるんだか。
佐藤　礼ってそんなに大事ですか？
森　勝ち負けじゃないんだよ、大事なのは。
佐藤　そうですか？　大会ですよ？
森　学生柔道はね、心と体を鍛えて、礼儀と困難の乗り越え方を学ぶためのものなんだよ。
小林　懐かしい。森先生、昔のままで安心しました。
森　礼節を持って強きをくじく柔道が、僕は好きだね。
佐藤　小林先生が学生の時代から、こんなこと言ってたんですか？
小林　そうですね。まあ正直この歳になったらわかりましたよ。
佐藤　そうなんですか。小林先生礼節ありそうですもんね。
小林　佐藤先生も、生徒と一緒に部活参加されてはいかがですか？
佐藤　いや、ちょっと教科の仕事で手一杯で。
小林　まだまだ覚えることもたくさんあるでしょうね、お若いので。
佐藤　私はあんまり気合！　とか努力！　みたいなタイプじゃないので。
森　そうだよね……。
佐藤　というか小林先生、こんなところで観てていいんですか？
小林　うちはシードなので、開始まで少し時間があるんですよ。
森　今年からシード校？
小林　あ、はい。たまたま昨年度から、体格のいい選手が集まりまして。
佐藤　すごいじゃないですか。森先生、私たちもシード取れるように頑張りましょう。
森　うちは高校ですけどね。
小林　佐藤先生は、何かスポーツやられてたんですか？
佐藤　吹奏楽部です。中高６年間。
小林　あー文化系でしたか。
佐藤　全然。楽器を使うスポーツですよ。うちの高校、毎朝ランニングがあって。
小林　え、ランニング？
佐藤　朝練の最初に走るんです、学校の周りを。肺活量が大事だって言って。
小林　それはいいですね。
佐藤　よくないですよ。疲れるし、授業前から汗かくし。
小林　でも、６年間続けてたんですね？
佐藤　まあ友達もいたし、他にやることもなかったので。
小林　柔道も続けられますよ。
佐藤　小林先生は何年やってるんですか？
小林　ブランクはありましたけど、高校からなので……１０年はやってますね。
佐藤　すごーい。ベテラン。
小林　森先生のおかげですよ。
森　何言ってるの。
小林　今日は、来てくださってありがとうございます。
森　急に連絡しちゃってごめんね。
小林　いや、驚きました。ご活躍は伺ってましたけど、会うのは僕らの卒業以来ですよね。

©shinya hori 2025 Printed in Japan

森　小林が結果出してるから、見てもらおうと思ってさ。
佐藤　頑張ってる先輩がいるから勉強になるぞって言われて。
小林　勉強になりました？
佐藤　なりましたよ、先輩。
小林　練習には参加する？
佐藤　ことができない。
森　そうだよね……。
小林　道場には行ってるんですか？
佐藤　行ってますよ。ね？
森　月に1回ね。
佐藤　まあ、部活も含めて、労働時間を削減する方向になってきてますし。
小林　それなんですよ。教育委員会だけじゃなくてもう国全体が、おかしな方向に進んでるんです。
佐藤　急に話でかくないですか？
小林　なんの資源もない日本がここまで発展できたのは、団塊の世代がみんな同じ方向を目指して、身を粉にして働いてきたからなんです。
佐藤　昔のことはあんまりわからないですね。
小林　ワークライフバランスなんて言ってたら落ちぶれて行くのは目に見えてる。みんなで一致団結して働かないと。
森　その結果みんなで社会のお荷物になってるんだよね。
佐藤　ちょっと不謹慎ですよ。
小林　先生そうは言いますけどね、今の日本、個人の幸せを優先して、国全体の平和を維持できるわけがないんですよ。石油とか木材とか金属とか、勝手に採れるものが何もないんですから。
佐藤　漫画とか今海外でも人気らしいですよ。
小林　まあそれもいいかもしれないですね。
森　それでいいんだよ。
佐藤　え、いいんですか？
森　モノづくりって意味で言えば、工業製品もフィクション作品も一緒だよ。闇雲にばら撒いてないで、そういう日本が得意な産業をどんどん支援するべきじゃない？
佐藤　なんだ森先生、意外と話がわかるじゃないですか。
小林　森先生、漫画お好きなんですか？
森　昔は……。

間。

小林　昔は？
森　……『火の鳥』を、よく読んだね。
小林　手塚治虫でしたっけ。
佐藤　すごい昔の漫画ですよね。
森　親父が好きでね。
佐藤　へえ。
小林　意外でした。
森　最近は……。
小林　最近は？
森　「タッチ」とかだね。

©shinya hori 2025 Printed in Japan

佐藤　へえ。
小林　意外！
佐藤　森先生そういうのも読むんですね。
森　あと、「NARUTO」とか。
小林　若い！
佐藤　いいですね。
森　あと「ヒロアカ」とか「僕ヤバ」とか――
佐藤　あーもう大丈夫です。
小林　学園ものがお好きなんですね……。
森　そうだよね……落ちこぼれの青春っていうのをさ、応援したくなるんだよね。
佐藤　わかります。自分を重ねちゃうところありますよね。あの頃迷ってたなあとか、頑張ってたなあ、とか。
小林　頑張ってたんですね。
佐藤　やらなきゃいけなかったから、やってただけですけど。
森　頑張るのも青春だよね……。
小林　先輩やみんなのために、臭い道着を洗ったことを思い出します。
佐藤　だから頑張ってませんって。
森　小林は偉かったよね。いつも最後に雑巾掛けしてたでしょ。
小林　先生、知ってたんですか？
森　道場の裏に車停めてたからね。お前と鵜飼が最後までだべってるのをよく見かけたよ。
小林　見られてましたか。
森　鵜飼のやつ。いつもロッカーをちらかして。
小林　俺も何度、片付けろって言ったかわかりません。
佐藤　鵜飼誰ですか？
小林　青薙中の生徒、３人とも鵜飼のとこの出身ですよ。
森　知ってるよ。なんだ、その……。
小林　「やわらかジュニア柔道塾」。
森　ふざけた指導方針を掲げてるよね。
小林　ああ、「人は勝手に育つ」っていう。
森　普通それを僕に言う？　自分の恩師をなんだと思ってるんだろうね。
小林　そういう意味ではないと思いますけど……ご存知だったんですね。
森　年賀状が来たよ、突然。当てつけとしか思えないよ。
小林　自分の指導した子たちを見せたかったんじゃないですかね。
森　ふん。軟弱なやり方で柔道をさせるのが許せないね。昔からそうだったよ。礼儀を欠いて、練習はサボる。要領よくやればいいと思ってるんだ。
佐藤　話終わりました？
森　終わりましたよ。
佐藤　あの選手も青薙中じゃないですか？　背中に名前書いてある。
小林　あ、本当ですね。
佐藤　お手を拝借しましょう。
小林　お手並み拝見ですね。
佐藤　それですね。

３人、試合に注目する。

©shinya hori 2025 Printed in Japan

佐藤　あの線が立ち位置ですか？
小林　そうです。で、向かい合って一礼。
佐藤　礼の仕方がなってないですねー。
森　本当だよ。
小林　……そうですね。
佐藤　なんか相手ボクシングみたい。
小林　撹乱してるつもりなんでしょうけど。
森　あれに惑わされてちゃあな。
佐藤　行け！
小林　俺は高校時代、あいつに色々アドバイスもらいました。
佐藤　掴め！
小林　あいつ俺の細かい癖とかよく見てるんです。
森　そう。
佐藤　あ、くっそ。おらーしっかりしろ！　負けるな！
小林　ちょっと、佐藤先生？
森　いいから、やらしときなよ。
小林　あ、はい……。
佐藤　あ！　投げた？
小林　内股ですね。
佐藤　うちまた？
小林　技の名前です。あー、抑え込まれましたね。
佐藤　わからないけど負けてるっぽい。
森　どんな教え方してきたんだか。
小林　俺、最近自分のこと思い出して、自主的にやれる生徒ならサポートに徹するのもいいんじゃないかって思い始めて。
森　うん。
佐藤　こらー、しつこいぞ、離れろ！
小林　今、結構効率化したトレーニングがあって。
森　わかるよ。でもね、効率がいいとかじゃないんだよ。稽古を通じて、大勢の相手との交流がある。勝てない辛い時期を仲間と支え合って、高め合って、それで勝てた時、それは一生ものでしょ。自分の壁を乗り越える必要があるんだよ。ちょっと集まってサッとコツを教えて、それで強くなりましたってんじゃ、それは成長したって言えるのかよ……。

試合終了のブザーが遠く聞こえてくる。

佐藤　あー負けたっぽい……。
小林　身長差はないですけど、体重差があるとやっぱり不利ですね。
佐藤　てかお母さんたちの応援やばくないですか？
小林　それはまあ、たまにいますね。

間。

小林　あいつも先生のこと尊敬してましたよ。

©shinya hori 2025 Printed in Japan

森　何言ってんの。
佐藤　私にも背負い投げ教えてください。
森　え？
小林　……柔道やるなら、先に受け身ですよ。
佐藤　えー私投げる係がいいです。
森　先生はまず柔軟だね。
佐藤　大丈夫です。若いので。
小林　ダメですよ、危ないし。準備運動はしっかりやらないと。
森　あのね、柔道っていうのは――
佐藤　心と体を鍛えて。
森　そうです。
佐藤　礼節を持ってなんでしたっけ。ま、運動不足だしストレッチはやります。
小林　急にやる気になりましたね。
佐藤　まあ、試合見てたら、なんかもうちょっと興味持ってもいいかなって思いました。
小林　はあ。
佐藤　意外と自分に合ってるかもって。試合も、森先生も。
森　えっ。
佐藤　というか、今のうちの柔道部って、ちょっとぬるくないですか？　もっとこうビシバシ？　熱血みたいな感じでやらないとみんなついてこないと思うんですよ。
森　だから、それぞれのペースに合わせて……。
佐藤　1番を決めないかけっこみたいなやつですよね？　それじゃ古いですよ。
森　古い……？
佐藤　たぶん生徒は、勝つにはどうしたらいいか教えてほしいって思ってます。何なら私、代わりに指導しますよ。朝練しましょう。学校の周りをランニング？　柔道の練習って何するんですか？
小林　ああ、まあランニングもしますね。
佐藤　じゃあ朝はランニング。放課後は技の練習ですよ。私わからないんで、手伝ってくださいね。
森　あ、うん。いいけど……。
佐藤　あ、青薙中の選手、出てきてますよ、ほら！
小林　お手を拝借しますか。
森　そうだね。

3人、試合に注目する。森、神妙な面持ちである。

佐藤　ずるくないですか、ああやって威嚇するの。
小林　やりすぎると指導が入りますね。
佐藤　がんばれ。
小林　お、惜しい。
佐藤　今の何ですか？
小林　小外刈りからの背負い落としですね。
佐藤　小外…？
小林　柔道には相手を後ろに倒す技と前に投げる技があるんですけど、それを連携させて、前に踏ん張らせた力を利用して投げるんです。
佐藤　へえー頭いい。

©shinya hori 2025 Printed in Japan

小林　大きな相手には王道と言えば王道ですけどね。
佐藤　でもまたやられてますね、抑え込み。
小林　王道だけに、相手も警戒してるんですよ。
佐藤　あれってどうなったら終わるんですか？
小林　決められた秒数あの状態で抑え込まれていたら負けです。
佐藤　やばいじゃないですか。
小林　あ、抜けましたね。
佐藤　セーフですか？
小林　ポイント取られちゃったみたいですね。
佐藤　せっかく投げたのに。
小林　ちょっと脇が甘かったですね。体の軸をまっすぐにしないと綺麗に投げられないんですよ。
佐藤　へえー。

試合が再開する。遠くで誰かが「亮介！　やっつけろ！」と叫ぶ声が響いてくる。

佐藤　お母さんやば。
小林　気合い入ってますね。
佐藤　応援したくなりますよね。
小林　お、これは。
佐藤　何？　何ですか？
森　おっ。
佐藤　投げた！　投げましたよ！
小林　今度は綺麗にいきましたね。一本だ。
佐藤　やったー。

試合をしていた両選手、退場していく。

森　巴（ともえ）投げか。
小林　勝ちましたね。
森　あれが普通になっていくんじゃあ、僕が今までやってきたことは、なんだったんだろうね。
小林　俺は、先生に教えてもらいましたよ。
森　勝手に育ったんでしょ？
小林　いやいや。
森　何がいやいやだ。
佐藤　よっしゃ、ちょっと私、練習メニュー考えてくるので、先に失礼しますね。お疲れ様です！
森　あ……。
小林　お疲れ様です。

佐藤、荷物を抱えて立ち去る。森、小林、それを見送る。

森　……若い人の考えることはわからないね。
小林　はい。
森　はあ。僕も帰るよ。
小林　あ、森先生、ちょっと時間ありますか？

©shinya hori 2025 Printed in Japan

森　なんで？
小林　今日、先生が来るってあいつに伝えたら、挨拶したいって。
森　あいつって？
小林　気まずそうにしてたんですけど、やっぱりお世話になったからって。本当は気にしてたんですよ。会ってやって下さい。
森　……知らねえや。
小林　森先生。
森　飯食ってくる。
小林　はい。あ、山田うどんですか？　山田うどん？

森、手で肯定しながら退場。小林、電話をかけながら鵜飼を迎えに行く。

――――――幕。

©shinya hori 2025 Printed in Japan